

令和8年度第1回東海市こども・子育て会議 議事録

- 1 日時 令和8年（2026年）9月11日（金）午後2時～午後3時15分
- 2 場所 東海市役所201会議室
- 3 出席委員（11名）
会長 山崎康一郎、塚田洋介、高藤由季、都筑委代、川北夏代、近藤高史、内田英伸、高木由起子、竹之内由佳里、唐澤貴斗、小野幸子
- 4 欠席委員（5名）
吉村清香、宇野まゆ子、坂田弘毅、八澤佳子、石田弘枝
- 5 職務のために出席した職員
市民福祉部長 濱田真理子、幼児保育課長 千田直子、同統括主任 宇賀神雄也、健康推進課主任指導保健師 大串文子、学校教育課指導主事 加藤雅尚、社会教育課統括主任 渡邊智也、社会福祉課統括主任 増山勇也、こども課長 永井直子、同主幹〔子育て支援センター長兼結婚応援センター長〕能登谷宏美、同主幹 佐田知子、同統括主任 中本雅江、同統括主任 島袋浩彰、同主任 西村美紀
- 6 公開、非公開の別
公開
- 7 傍聴者数
0人
- 8 会議日程
 - (1) 開会
 - (2) 部長あいさつ
 - (3) 会長あいさつ
 - (4) 報告事項
 - ア 成果指標（東海市こども計画）について
 - イ 量の見込みと確保方策に関する評価・分析（東海市こども計画）について
 - (5) 協議事項
特定教育・保育施設の定員の変更等について
 - (6) その他

(7) 閉会

9 会議内容

(1) 開会

(2) 部長あいさつ

皆様、こんにちは。4月に市民福祉部長に就任いたしました濱田真理子と申します。本日は、令和8年度第1回こども・子育て会議に、大変お忙しい中、また大変足元の悪い中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から本市の福祉行政に温かいご理解とご協力をいただいておりますこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、本市の第7次総合計画では、子ども・子育て分野におけるめざすまちの姿を「安心して子育てができ、子どもが健やかに育っている」とし、子育てしやすく、子どもたちが健やかに成長できるまちづくりを、めざすまちの姿に基づいて進めております。

今年度で計画期間の2年目を迎えております「東海市こども計画」につきましては、『こども・若者とその家庭をしあわせに』を基本理念とし、五つの基本目標を基に、様々な施策を推進しているところでございます。

委員の皆様には、この会議におきまして、施策の推進についての点検・評価及び、事業を進めるにあたっての改善や充実を図っていくための貴重なご意見を頂戴したく存じます。

「日本一子育てしやすいまち」を目指し、東海市で安心してこどもを生み、育てることができる環境整備のため、皆様の忌憚のないご意見とご協力をお願いしまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

(3) 会長あいさつ

皆様、こんにちは。会長の山崎でございます。本日は雨の中お集まりいただき、ありがとうございます。

子育てについては、皆様も肌で感じておられる通りですが、様々な環境の変化があるところだと思います。妊娠・出産から子育て、そして若者の自立に至るまで、切れ目のない支援を目指して、東海市は様々な取り組みを実施しているところです。特に、住民に最も身近な基礎自治体として、重要な役割を担って進めて

います。

この会議は、こどもや若者に関する様々な取り組みを、より効果的に進めるために設けられたものです。皆様から広くご意見を伺いながらより良い施策に繋がっていきたいと思っております。

こども計画の進捗状況の確認をはじめ、保育所等の利用定員の設定などについて、皆様の意見をお伺いできればと思っています。また、こども・若者の視点に立ち、子育て世帯に寄り添った支援のあり方について、活発に意見交換ができればと思っています。

私が最近感じていることなのですが、こどもの意見を聴くことは国でも提唱されていますが、私の世代では意見を聴かれるということはあまりなかったように思います。意見を聴かれないから言わなかったかということではなく、意見を聴かれなかったからこそ強く主張していた部分もありました。一方で、自由に意見を言ってくださいとなると、それが苦しいという若者の声もあったりするわけです。物事はそれほどシンプルではないというところで、日々こどもに関わっていらっしゃる皆様から様々なご意見をいただきながら、より良い方法を考えていけたらと思っています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(4) 報告事項

ア 成果指標（東海市こども計画）について

事務局より資料に基づき説明

(会長)

ただ今の説明について、何かご質問やご意見等があればお願いいたします。

資料1は、皆様に関連するような事項もあったかと思いますがいかがでしょうか。

(内田委員)

質問ですが、改善している／悪化しているというのは、パーセンテージ上の数字だけの結果で評価しているのでしょうか。また、令和6年度、令和7年度ともに調査対象者は同一でしょうか。調査方法が資料からは読み取れないので、教えていただきたいです。

(事務局)

改善／悪化は、単純にその数値を見て、ポイントとして上下しているかで表現

しています。方向性として上昇を目指すものはポイントとして数値が上がっていれば、改善という形になります。方向性として上昇したほうがよいもので、数値が下がっていれば悪化という表現になります。また、成果指標は、上位計画の東海市総合計画の市民アンケートを使っている部分が多く、無作為抽出のため対象者は毎回変わります。

(内田委員)

改善／悪化という表現で今説明を受けましたが、パーセンテージでいくと誤差ではないかと感じます。例えば「子育てしやすいまちであると感じている18歳以下の子どもを持つ人の割合」の84.8%という数字は素晴らしいと思います。普段の取り組みの成果だと感じますが、改善／悪化という結果で表現するには、同じ方に聞いたうえで一年経ってどう変化したかというアンケート手法の方が、分かりやすいように感じました。

(事務局)

良い数字だと言っていたこと、ありがとうございます。ただ、対象者を限定してというのはなかなか難しいです。第7次東海市総合計画のアンケートを毎年実施しますが、市民の皆様の主観的な意見を様々な項目のアンケートで伺っています。その中の一部分として、こども計画の指標も含まれています。第7次総合計画のアンケートの取り方は、10月1日現在満16歳以上85歳未満の2,500人の方にアンケートを送りますが、その際、またアンケートが来たとならないよう、昨年度の市民アンケート対象者の方には繰り返し送らず、様々な方へ送付し、ご意見を伺う方法としています。児童・生徒については、毎年小学5年生と中学2年生に、タブレットを活用してご協力をいただいています。

(会長)

同じ方を追跡していくと、その方の検討ができるという一つの指標にはなるかと思いますが、割と時間とコストが膨大にかかったりする方法でもあります。また、子育てのライフステージ等短期間で変化をしていくこともあるので、次の世代に聴いていくというようになるところになるかと思います。この数字にどんな実感が乗ってくるのかぜひ皆様からご意見をいただけると、数字の見方も変わってくると思います。私から内田委員にお聞きしたいところなのですが、夢や目標を持っている児童・生徒の割合というところで、今年の中学生は去年の中学生より

低かったという数字ではありますが、中学校の生徒さんを見られている中で感じるところがあれば教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

(内田委員)

私は、4月から横須賀中学校に赴任してきましたのですが、その前は、別の中学校で生徒指導主事を6年間務めました。なかなか目標が見出せない、夢が持てない生徒達と接する機会が多かったのですが、その中でも、きっかけを与えられる大人と接した経験がある子は、私の言葉が伝わりやすいと感じました。親だけが、教員だけが、ということではなく、多くの人から目標を持つことの素晴らしさを様々な表現で伝えていく環境があれば、より良くなるのではと感じています。自身が教員になったのは、自分の好きなことを活かせる職業に就きたいという思いがありました。担当科目の授業やS T、全校集会等で話す機会があった際に、積極的に伝えていったつもりではいます。

(会長)

私も共感するところがあり、情報量が多いなか、夢を聞かれる機会も増えていますが、この情報過多のなかで夢を見つけることが難しくなっていると感じたりするので、今おっしゃっていただいたように、身近な人が夢を話せるというのは、すごく意味のあることだと思います。

唐澤委員はいかがですか。

(唐澤委員)

私の場合は目指している職業になれるかという不安もありましたが、大学の先生がアドバイスや後押しをくれたことで私はこの夢を持つことができたので、きっかけが身近にあるのは大事なかなと思います。

(会長)

身近な大人が夢を語れるというのは大事なことだと思います。

(竹之内委員)

私は、以前児童館に勤務しておりました。学校の先生など伝えてくれる人はたくさんいますが、信頼関係がとても大事だと思っています。苦手な先生から言われたら響かないですが、好きな先生が助言や注意したことは心に入っていく。人と人との繋がりや伝えてくれる人との信頼関係が必要だと仕事を通してとても感じました。

(会長)

最近、なかなか人に対して踏み込みにくくなっているように感じるのですが、しっかり向き合うことをやり過ぎてしまうと、すぐに問題になることもありがちです。しっかり関係を築きにくい部分もあるのではと思いますが、そのあたりは信頼関係をつくるにあたりいかがですか。

(竹之内委員)

一生懸命自分が向き合っ、その子に伝えようと思っていることを上っ面でなく心から伝えていけば、いずれ伝わっていくような気がします。

(会長)

こどもはちゃんと、上っ面の情報とそうじゃない情報を嗅ぎ分けられる力があると思います。また、様々な情報の中で、本当に信頼できる情報を、人との関係の中で見つける力があるのかなと思います。

他にご質問やコメントがあればお願いします。

(唐澤委員)

資料2の5ページ「子育てしやすいまちであると感じている18歳以下の子どもを持つ人の割合」が、昨年と比べても基準値と比べても、今年度上昇していますが、要因として一番考えられるのは何ですか。

(事務局)

東海市はPRが下手と言われており、情報が届かないなどの意見は以前からありました。数値が上昇した要因としては、広報、ホームページ、アプリや情報誌などを用いて、情報発信していることも一つに挙げられると思います。このアンケートの対象者は実際に子育てをしている方なので、東海市が様々な子育て支援サービスを実施していることも感じてくれているのではと思います。

(唐澤委員)

子育て世代の方々を中心に、SNS等で伝えているという感じですね。

(事務局)

母子健康手帳アプリでプッシュ配信していますが、先ほどのお話にもあったように情報過多の時代なので、届いた情報を受け流すこともされていますので、いかに目に留まるようにするかが重要だと考えています。また、サービスはあっても利用したことがない方もいます。情報発信が魅力的に映れば、利用者も増える

のではと思います。

(唐澤委員)

子育てアプリの利用者は、どのくらい増えたのでしょうか。

(事務局)

令和7年度時点で2,403人登録されていて、新規登録者数は令和6年度で614人、令和7年度で459人です。

(会長)

だいぶ高い数字かと思いますが、さらに上げていこうとした時には、どういった方法があるか教えていただけますか。

(事務局)

今あるサービスを知らない方もたくさんいるので、そういった方に情報が届くようにするのも一つかと思います。また、実際に利用した方からは、利用してみたら良かったという意見が多いです。市の事業は最初の一步のハードルが高いと思われる部分があるので、そこを下げられると良いのではと思います。このサービスを利用してよいのかなと感じる方もいらっしゃると思いますので、まずは利用してもらうことで、「使って良かった」、「子育てがしやすくなった」と思う方も増えるのではと思います。

(会長)

最初の繋がりが大事だということですね。今現在繋がっている方が多いということですが、困難がある家庭や繋がりにくい家庭に対してはどう対応するかが課題というところですね。

次の議題に移ります。

イ 量と見込みと確保方策に関する評価・分析（東海市こども計画）について
事務局より資料に基づき説明

(会長)

ただ今の説明について、何かご質問やご意見等があればお願いいたします。

3歳以上は余裕がありますが、0・1・2歳児は保育士不足があり、実際に受け入れられる人数よりも少ない人数でしか受け入れられないという支障が出ているということですね。

(都筑委員)

特に0歳児の待機児童が多いということで、主な原因は保育士不足と感じたのですが、こども誰でも通園制度が始まることにより一日3人から9人ほど0～2歳児を受け入れることになっています。保育士不足で大丈夫なのでしょうか。

(事務局)

東海市の場合、こども誰でも通園制度は、現在民間には依頼しておらず、市で行う部分なのですが、公立の保育園だけでも保育士が不足している状態です。ただ国の政策として、こども誰でも通園制度を開始するよというということで、人のやりくりが難しいなかでなんとか実施している状況です。

(会長)

あったらいいなという仕組みではあるけれど、それを担う人をいかに確保するかというところですね。

(事務局)

こども誰でも通園制度は、正職員と定年延長の職員、会計年度任用職員で運営している状態です。

(会長)

保育士を養成している立場としても、保育士になりたいという学生を集めるのはなかなか大変で、非常に魅力的な仕事だと思いますが、難しいですね。

(5) 協議事項

特定教育・保育施設の定員の変更等について

事務局より資料に基づき説明

(会長)

ただ今の説明について、何かご質問やご意見等があればお願いいたします。

(近藤委員)

私立の保育園を2園追加で募るということですが、現時点で足りないから増やしましょうというのは分かります。ただ、事業として実施することを考えたときには、5年後10年後を見据える必要があるはずで、これだけ少子化が止まらないなかで、事業者が集まるのかという疑問がありますが、実態として候補者はいるのでしょうか。

(事務局)

今回小規模保育事業を公募した結果、3事業者から提案があり、その中で審査して決定という経過をたどっています。小規模保育事業については、何十年とかけて採算を合わせるものではなく、比較的短期間で採算を合わせやすいものだと聞いており、今回は提案がありました。ただ、ご指摘のとおり、0歳から5歳までの大規模園となると話が変わると事業者から聞いています。東海市も将来的にはこどもが減っていくと思いますので、供給と提供のバランスをどのように取っていくかは非常に難しいなかで、今回の公募という形になります。

(会長)

こどもが減っていくなかで、今現在足りない部分をどう補っていくかというのがなかなか難しいところだと思います。

(6) その他

今年度進めてきた主な事業について

事務局より説明

(会長)

全体を通して、何かご意見があればお願いします。

(事務局)

東海市には公立保育園が18園あります。令和4年度に策定した『公立保育園と民間保育所等の在り方に関する基本方針』において、名和東保育園は施設の老朽化のため、令和9年度末をもって廃園する方針をとっており、新規入所を低年齢児から段階的に絞ってきました。

今年度の入園に関しては4・5歳児の入園希望者の募集を行いました。新規入園はなく、以前から在園していた5歳児が年度当初5名在籍している状況となりました。今年度末にこのお子さん達が全員卒園されると在園児が0人となりますので、当初方針をとっていた令和9年度末の廃園からを1年前倒して、今年度末をもって廃園となりますので、この場をお借りしてご報告いたします。

(会長)

皆様から何かよろしいでしょうか。

本日の議題は全て終了しました。ご協力ありがとうございました。

(7) 閉会